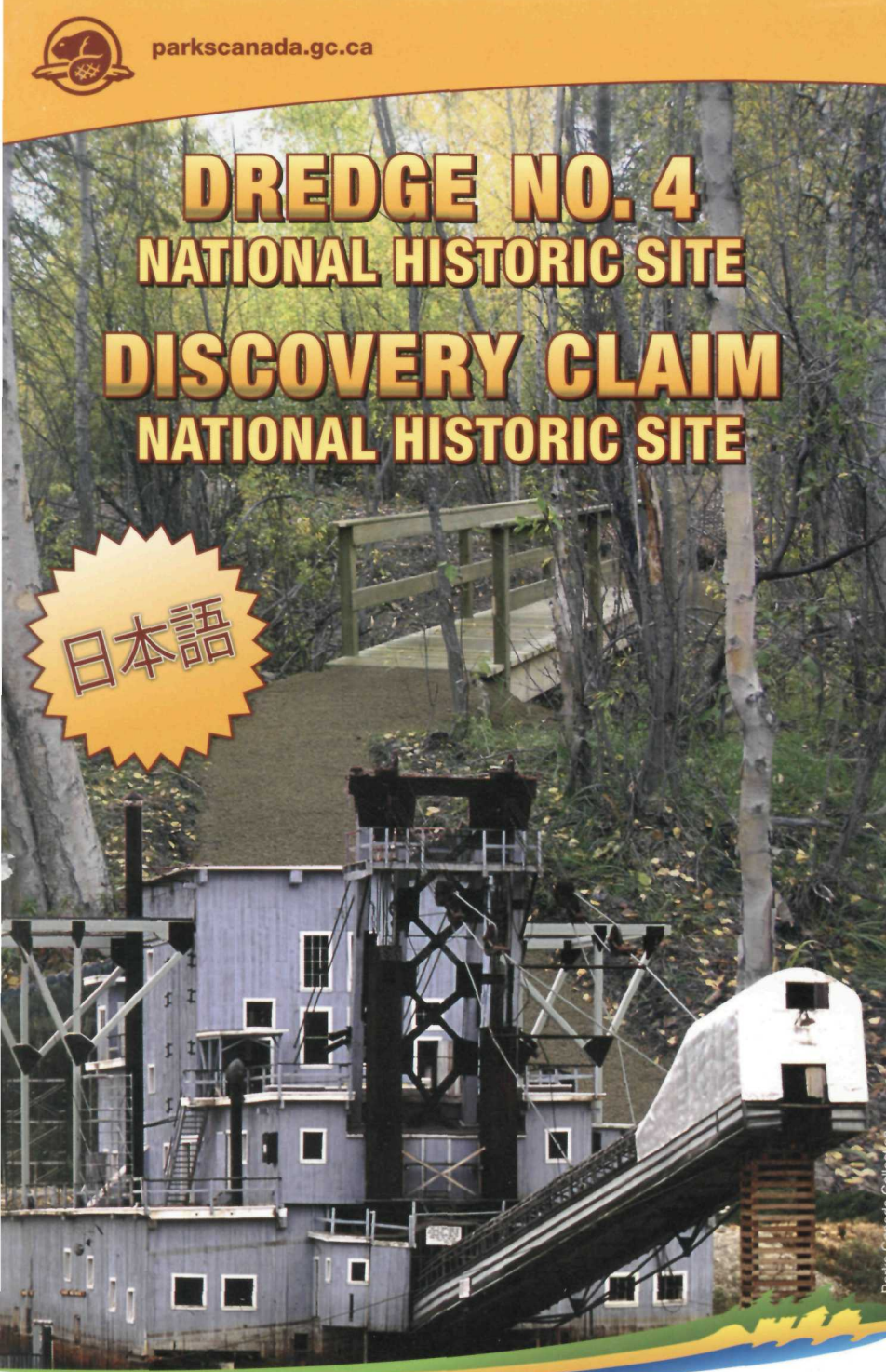
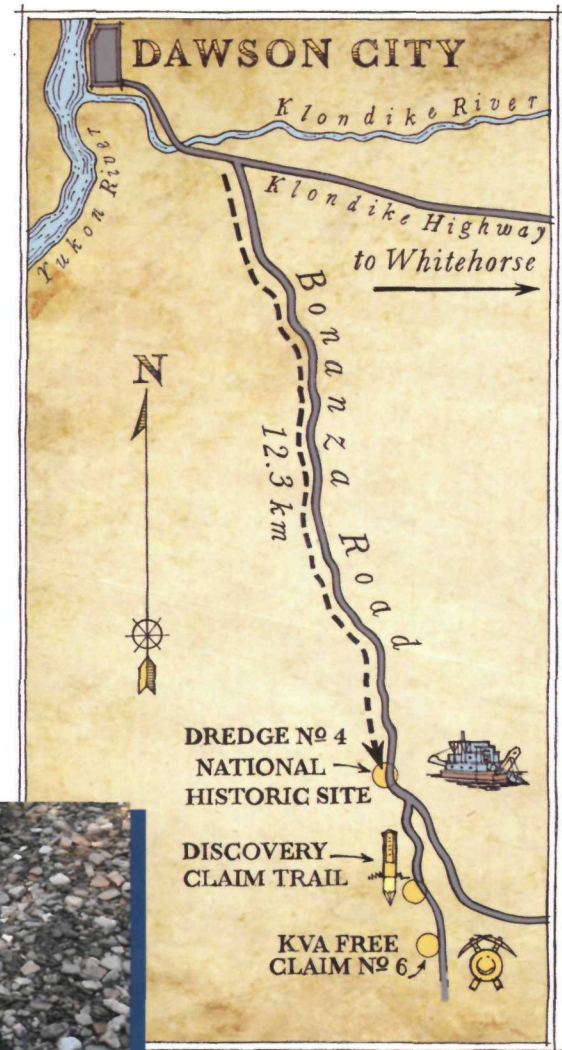


DISCOVERY CLAIM TRAIL

所在地

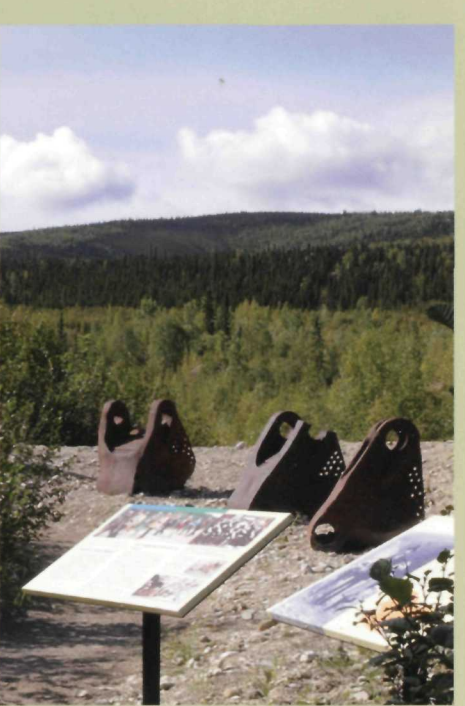
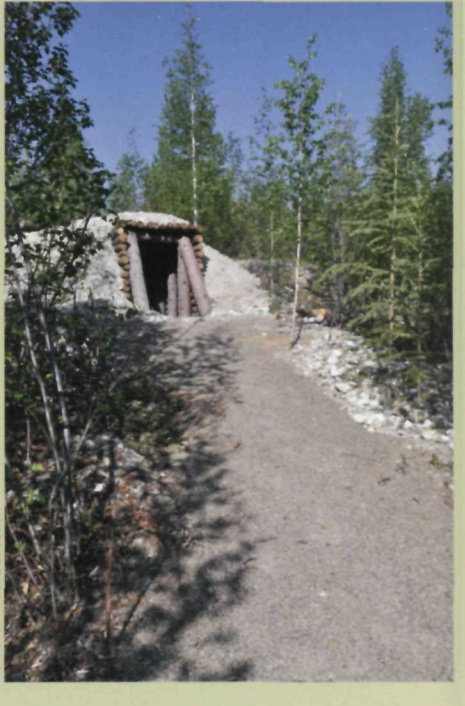
金鉱地域を通るボンザークリーク・ロード (Bonanza Creek Road) を車で走って行く、1世紀を超える間に進化し続けた鉱業技術による風景の大きな変化を目の当たりにして驚くことでしょう。ぜひ、その壮大な姿が印象的なドレッジ (浚渫船) 4号に足を踏み入れて、技術と人間の創意工夫が生み出した傑作をご覧ください。道の分かれ目から右の道に進むとディカバリー・クレイム・ハイキングコースに着きます。広い駐車場があり、コースの一部は車椅子でも利用できるよう整備されています。是非、川での1日をお楽しみください！ 誘惑に駆られるかもしれませんが、砂金すくいには、探掘権違反になりますので、くれぐれもなさらないようお願いいたします。この渓谷は1896年からずっと鉱業が行なわれており、金の探掘権は今も有効な私有物です。砂金すくいは、このハイキングコースから車ですぐのところにある、クレイム6号で無料で体験することができます。



日本語

金を探す探鉱者は1870年代にはすでにこの地域に三々五々やってきていました。新しい金鉱を求める飽くなく探鉱心がかリフォルニアから北方へと導いたのです。地域を系統的に探索することによって、各地で小規模な発見があり生計を立てることは可能でしたが、当時は「ラビット」と呼ばれていたこの川での金の発見によってすべてが変わりました。

意外な3人組がこの地域にいました。彼らがここにいた理由について、金を探していたという人もしれば、ムース猟をしていたという人もいます。いずれにしても、タイミングと幸運の女神が、スクーカム・ジム (キーシュ)、ドーン・チャーリー (カア・グークス) とジョージ・カーマックに微笑んだのです。1896年8月17日、3人はこの川の発見者優先鉱業権を申請しました。3人は、クロンダイク・ゴールドラッシュの火をつけ、地形と数千人の暮らしを永久に変えることになった金の発見をした人物と認識されています。10月末までには付近のほとんどすべての土地は、金の発見を口伝えて聞いた幸運な探鉱者たちによって、探掘権が申請されていました。まもなく金の熱に浮かされた数千人の人々が「外部」からやってきましたが、探掘権を取得できた人はわずかでした。この発見により、世界に知られるようになる街ができ、ユーコン準州の黎明期を記すことになりました。つるはしとシャベルを抱えた探鉱者の細々とした流れが、4万人が押し寄せる洪水へと変わったのです。しかし、グレート・クロンダイク・ゴールドラッシュはわずか数年続いただけで、1899年には探鉱者は新しい金の夢を求めてアラスカへと移っていき、この地域の川では機械が人間に取って変わるようになりました。



あなたは探鉱希望者ですか？
今は1898年だと想像してください。

あなたはクロンダイクにやって来たばかりの「チーチャコ」です。チルクートレールを苦勞して運んできた必要な装備は1トンにも上ったはずですが、その中には、つるはし、シャベル、砂金すくいのお皿といった仕事道具は入っていますか？ さて、金はどこにあるのでしょうか？



砂金は、何千年にもおよぶ浸食によって金が土砂の中に貯まってできるもので、一般的に、基盤岩の上の河床の中にあります。砂金は「貧乏人の黄金」とも言われ、つるはしやシャベルといった簡単な手作業用の道具で地中から掘り出すことができます。川から10セント分の金をすくうことができれば、探掘権を申請することを考えるといいかもれません。1898年の金の価格は、1オンス当たり20.67米ドルでした。

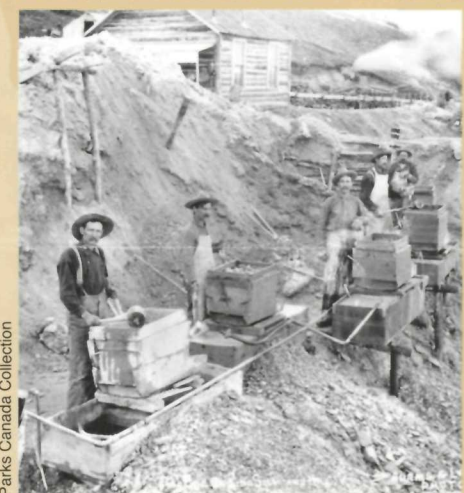
見つけた！ 探掘権を申請...

川の両側250フィート (76 m)、川に沿って500フィートの長さの区域で採取する権利がありますが、もっと広い区域が欲しい場合は、お金を払ってより広い面積の探掘権を取得することになるの制限もありません。

探掘権申請の杭は木製で、次のことを刻むことが必要です。
権利番号 (当該の川で一番最初に権利を申請するならば、それは発見者優先鉱業権です。それでも、あなたの区域の上流、下流の区域に権利区域を申請することができます)、氏名、年月日、杭番号1、2、3、4。

手続き完了はもうすぐです！ 次にしなければならないことは、英自治領土地事務所での権利登録です。ドーンシティができた1896年より前にここにいらしたならば、土地事務所はユーコン川を50マイル (80 km) 下ったところにあるフォーティマイルに行かなければならず、期限は60日間でした。ですが、あなたは幸運です。今はドーンシティは活況を呈するサービス・物資供給拠点となっていて、鉱夫のあらゆるニーズに対応しています。権利はここで登録するといいでしょ。

この川で初めて金が発見された後に探掘権を申請することは、雪崩をうつような競争でした。地域のすべての探鉱者がチャンスの一端をつかもうとひしめき合ったのです。未熟な探鉱者の中には、川の流れをたどって楔形の権利区域を得るはめになった人もいました。英自治領政府測量士のウィリアム・オギルヴィーは、権利申請の騒ぎが終わった後にボンザークリークの土地の再測量を担当しました。大抵の場合、探鉱者たちは正確に区域を印していましたが、一人の不運な人は、「あまりに曲がりくねって歩いたために、下流の境界線は上流の境界線より12フィート (3.7 m) 上に位置することになっていて、要するにゼロより12フィート少ない区域を申請したことになっていた」(ウィリアム・オギルヴィー記) のです。



金を見つけるだけなら簡単です

金が見つかったら、探掘の重労働が始まります。火を使って凍土を解かし、より豊かな金の鉱床があるところまで立坑を掘ります。巻上げ機を使って泥を地表まで運び上げ、立坑の横に置きます。効率よく作業がはかどった場合、金が混ざった土砂を一日で小型車一台ほどの量かき出すことができます。

零下50度の気候とわずかな食糧といった条件の下で、鉱夫の価値は地面から土砂を掘り出すことにかけた決意によって決まります。春までの間に、探掘権区域の状況を知るために掘った立坑は2、3本になっているかもしれません。そして、水で洗って金を分別するための土砂がかなりの大きさの山となっているはず。金の重量は水の19倍なので、桶流し法という洗浄工程によって土砂から分別することができます。土砂を洗って金を取り出すためには、ロッカーボックスを作ります。ロッカーボックスは掘りかごのような形の木製の箱で、底にすじ状のこぼれを付けたものです。金の混ざった土砂をロッカーボックスにすくい入れて、水を流し箱を揺らすことによって、土砂は取り除かれ、金は底に貯まるはず。冬は豪遊？

冬の重労働を終えて初めて、自分がクロンダイクの新しい百万長者になったかどうか分かります。汗流して働いている間に、「北のバリ」と呼ばれるようになったドーンシティがユーコン川のほとりに生まれていますので、手に入れたばかりの富の使い道はいくらでも見つかります。

砂金すくいのやり方

縁がせり上がっているお皿を使います。お皿の4分の3の量の土砂を入れ、水に浸けて左右に振ります。大きな石は手で拾って取り除いてください。お皿を向こう側に向けて傾けて土砂が流れ出るようにします。水を追加し、スープのような状態を保ちながら、土砂をこぼす作業を続けますが、お皿の底が縁より高くないようにしてください。土砂の最後の少しがまだ残っているときに、円を描くようにお皿を動かして金が分離するようにします。最後にお皿を水に浸けて傾けると、残った土砂が無くなって、重い金が底に残っているはず。砂金すくいのやり方



- 1 Tr'ondëk Hwëch'in
- 2 Keish / Skookum
- 3 The Big Strike
- 4 A Meeting of Cultures
- 5 Mining Discovery Claim
- 6 A Tribute to Yukon Miners
- 7 "Cat" Mining in the Goldfields
- 8 The Sluice Run
- 9 Hand Mining
- 10 The Windlass
- 11 Open-pit Mining
- Wheelchair Accessible

ご体験ください、すべての始まりとなった場所を...

この国の多くの先人が歩いた道を進んでみてください。ディスカバリー・クレイム (発見者優先鉱業権) ハイキングコース (Discovery Claim Trail) は文化史に興味がある方ならどなたにもお楽しみいただけるトレイルです。この自然豊かなハイキングコースの距離は1キロ強で、平均的または体力にあまり自信のない方でも、ゆっくりしたペースで歩くことができます。コース沿い各所に、この地域の過去の驚くような物語を綴った案内板がありますのでどうぞご覧ください。このハイキングコースはクロンダイク金鉱地域の最新のアトラクションです。

このプロジェクトは、クロンダイク百周年記念協会が、この区域の探掘権を実際に使用した最後の鉱夫、故アート・フライの寛大な貢献を通して企画したものです。協会はこのハイキングコース・プロジェクトの推進に重要な役割を果たし、カナダ公園局とユーコン準州政府はこの取り組みにパートナーとして協力しました。

この歴史的な場所とふたつの文化が出会いました。発見者優先鉱業権が申請された場所は、トロンデック・フウェッチン先住民の伝統的居住区域でもありました。非先住民たちの到来は先住民の人々の生活に深い影響を与えました。伝統的に



食糧を追って遊牧生活を行ってきたトロンデック・フウェッチンの人々に、金はほとんど利用価値のないものでした。初期の探鉱者たちは、北方の土地で生き延びるために必要なスキルを先住民に頼りました。一攫千金を夢見る人々の大波に押しやられた先住民の人々は、それでも西洋文化の影響に適応し活用して、自分たちの知識を惜しみなく分け与えました。先住民は賃金労働に基づく経済に参加して、船尾外輪船のための木を切り出し、川船を操縦し、ドレッジで動きました。今日トロンデック・フウェッチン先住民は、地域社会の重要な構成員であり、自治を行なう活力ある集団として言語と伝統を維持しています。

ぜひお試しください！ クレイム6号

金はここにまだあります。必要なのは適度の忍耐力と運だけで。砂金すくいの皿を持ってクレイム6号に行き、河岸から土を少しすくって川で洗って見てください。見つけた金はお持ち帰りできます。現在この区域は、どなたでも無料で運だめがでできるようにクロンダイク観光協会が管理運営しています。砂金すくいの道具は手で使うもの、つまり、砂金すくい用の皿とお皿とシャベルに限られています。道具はご自分のものをご持参ください。

DREDGE NO. 4 NATIONAL HISTORIC SITE

ドレッジ(浚渫船)4号: これは一体なに?

みなさんの目の前にあるのは、超大型の金採掘マシンです。

この船が、毎年毎年、少しずつ前進し、地形を恒久的に変えていった様子を想像してみてください。ドレッジ4号は北米最大の木造船体バケット浚渫船でした。マリオン蒸気ショベル社の設計により、1912年にカナディアン・クワンダイク・マイニング社のために建造されました。浚渫船は1分当たりバケット22杯の速度で金を含む土砂を掘り上げながら、自身が作った池を進行しました。稼働季節は天候によりましたが、大体4月から11月の約200日で、その間1日24時間操業しました。一度の季節に半マイル(800 m)ほどしか前進しませんが、46年の間に9トンの金を掘り出し、860万ドルを稼ぎ出しました。また好業績の日には、1日の採取量は800オンスを超えました。

金のほかに、浚渫船は作業進路上であらゆるものを掘り出しました。その中には、昔立て坑に投げ入れられた古い塩漬けハム、前史時代のマンモスの牙、入れ歯一式などもありました。

ドレッジ4号の長さはアメリカンフットボール場の3分の2、高さは8階建てのビルと同じです。

その仕組みは?

ドレッジは電力で稼動しました。

凍結した地面に置かれると、スパッド(錨)が下げられ、回転軸として機能しました。

- #1. ケーブルを丘斜面に埋めた丸太につなぎ、そのケーブルをウィンチ装置によって制御して、池の中でドレッジの動きを操作しました。
- #2.3. 船首にあるバケットライン(掘削ラダー)が金を含む土砂を掘り出してホッパーに入れ、土砂はそこからトロンメル(回転ふるい)に入っていきます。
- #4.5.6. トロンメルは、回転する管のような金属製のふるいで、継続的に回転し、50フィート(15 m)の長さの中に様々な大きさの穴が並んでいます。トロンメルを通して水を吹き付けて土砂を洗い、金や種流し箱に貯まって集められるようになりました。
- #7. 処理済みの土砂はベルトコンベアで送られ、ホタテを並べたような形で船尾から排出されました。

ドレッジが掘る一番深いところまで達すると、スパッドと掘削ラダーを引き上げて、ドレッジはウィンチで引いて10フィート(3 m)ほど前進させます。延々と続く、金属が金属と土砂に当たる大きな作業音を想像してみてください。ドレッジの音は13キロ離れたところまで聞こえました。

世紀の変わり目:



Parks Canada: Anita Johns Collection

世紀の変わり目のころには、クワンダイクの金採掘は機械化が進んでいました。個人の採掘は手作業の限界に達している一方で、金の埋蔵量はまだまだ多く残っていました。蒸気ショベルはより深くより速く掘ることができ、ウォーターポンプは表土をより素早く除去することができ、水蒸気管は火で立坑を凍結するのに比べてごく短時間で地面を凍結することができました。採掘の関連規則も変化していました。政府はゴールドラッシュによくある急騰と暴落の傾向を避けるために、個人の採掘から大規模な採掘に焦点を移すことの必要性を認識したのです。大規模な土地の採掘権が与えられ、企業による採掘の道が大きく開けました。1905年までには、ドレッジ(浚渫船)が金採掘の手段として主流となりました。クワンダイクの覇権を争った2つの大企業はカナディアン・クワンダイク・マイニング社とユーコン・ゴールド社でした。両社とも、グッゲンハイム家やロスチャイルド家など外部企業家から多額の資金支援を受けており、またドーソンシティは、企業による採掘事業に不可欠な、行政・金融サービスの拠点となっていました。交通網はホワイトバス・ユーコンルート鉄道によって整備され、機械採掘に必要な重機は蒸気船によって運ばれてきました。企業による鉱業はドーソンシティとユーコン準州の将来を保障するものとなったのです。

終焉



Parks Canada: Mike Purnmeier Collection

1912年までにはクワンダイクで操業しているドレッジは13隻を超えました。しかし、第一次世界大戦が始まると人手不足と外国投資の減少が起こりました。2つの会社は統合されて、ユーコン・コンソリデーター・ゴールド・カンパニー(YCGC)となりました。大恐慌時代には金の価格が1オンス当たり35ドルに上がったことで浚渫事業が息を吹き返しましたが、第二次世界大戦によって人件費が高騰し、金の固定価格が利益率に影響して、1966年にはすべての浚渫活動が終結しました。浚渫事業の黄金時代(この時代には、ユーコン準州は3人の人物、金採掘長官、連邦上級警察官およびYCGCのマネージャーが動かしていると言われました)は終わり、川には静寂が戻ってきました。

ドレッジ4号は1959年11月に現在ある場所に沈んで操業が終了しました。1991~1992年にカナダ公園局はドレッジ4号の大規模な修復を始め、深さ18フィート(5.5 m)の水と沈泥から解放して掘り出し、再び水に浮かべて現在の設置を行いました。修復作業は今も進行中です。



Parks Canada: Ernie Baz Collection

就業者

一度の季節の間に、浚渫会社が雇用する従業員は、作業員、エンジニア、会計士、機械工などを含め750人を超えることもありました。流動性のある人材プールは時には「外」から集められ、夏にクワンダイクで働く季節労働者として大学生も呼び寄せました。住居と食糧は提供されましたが、秋に地元に戻る時には自分で交通費を負担しなければなりませんでした。ドレッジマスターは一隊のドレッジ船を管理し、すべての記録管理を行なうとともに、冬の間はドレッジの維持整備を監督しました。場合によっては、日中のシフトの間にウィンチルームの業務も行ないました。

ドレッジ自体の乗組員はわずか4名で、8時間交替で一日24時間操業しました。

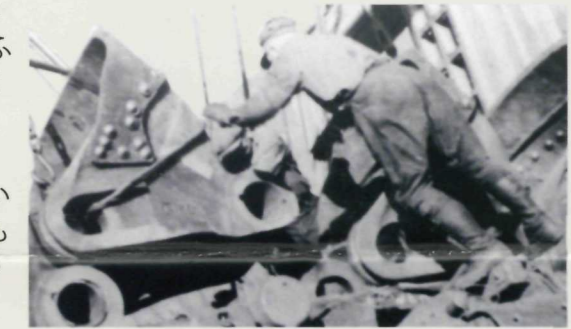
ウィンチマンはドレッジの掘削と動きの操作しました。

オイラーは、ウィンチマンの下で訓練を受け、ドレッジの各所を見回り、予防的整備として機械類を検査し油を差しました。乗組員に温かい食事を出すのもオイラーの役割でした。

スターンデッカーはトロンメルの終端にいて、ベルトコンベアに流れる土砂が詰まらないように監視しました。

ボウデッカーは新人の乗組員で、シャベルを持って船首に立ち、バケットがすくってきたすべての泥が実際にバケットの中に入っていて、端からあふれ出て付着していないようにしました。

ドレッジの外では5人の非技能労働者が働いていましたが、ほとんどいつも泥にまみれていました。この5人が電気とウィンチのケーブルを操作しました。



Parks Canada: Ted Thomson/Trump Collection

地面の準備

ドレッジの進行方向の先の地面は、2~3年前に準備作業を行いました。コケ、表土、ゴールドラッシュ時代の遺物など、ドレッジの進行を妨げるあらゆるものを除去し、高圧放水砲で汚泥を洗い流した後、凍土の凍結作業が始まります。金属製の挿入管を大槓で地面に打ち込み、空洞になっている端から水を散布。これで3~4インチ(7~10 cm)ほどの深さを凍結することができ、25フィート(6 m)の深さまで凍結するのにおよそ2週間かかりました。

凍結作業員はいつも水に濡れていて、雲のように群がる蚊の中で働きました。



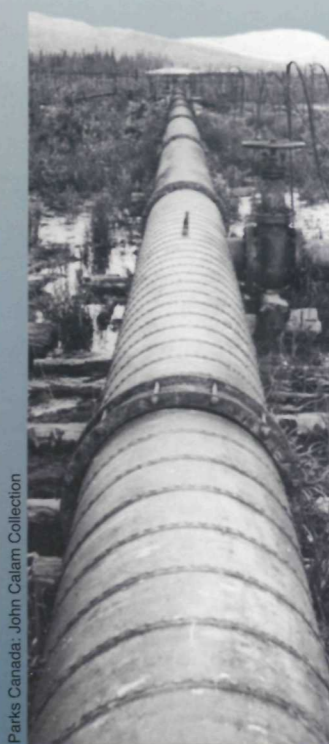
Parks Canada: George Humer Collection

水

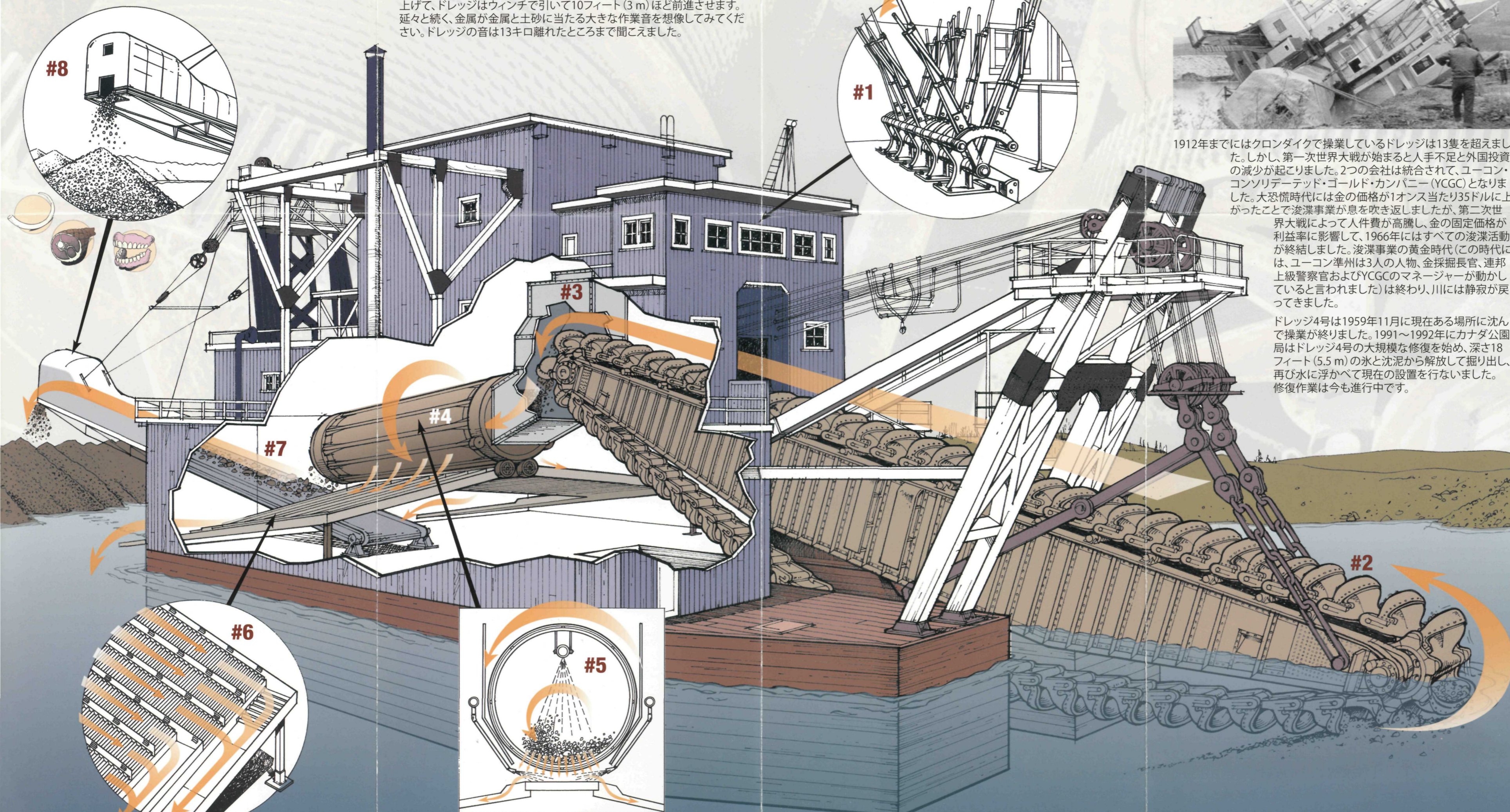
「そして、段丘や丘斜面では、お茶一杯を入れるための水さえもないために、鉱夫たちは見込みのある採掘権を売り渡さなければならなかった!」

砂金採掘のために最も重要な要素は水です。ドレッジが水力発電と種流し法のために必要とする水の量は莫大なものでした。クワンダイクにおける水不足のために、偉大な土木工事の規模としてパナマ運河にも匹敵する工事が始まりました。「ユーコン溝」は多くの樋と溝から構成され、川沿いの数多くの採掘事業に重力を利用して給水しました。完成は1909年で、70マイル(113 km)以上も離れた場所からクワンダイク渓谷まで水を運びました。クワンダイク川のノースフォークに水力発電所が建設され、ドレッジの操業ならびにドーソンシティのために十分な電力をクワンダイク渓谷に供給しました。

1一般市民は電気料金を浚渫会社に支払いました。



Parks Canada: John Clifton Collection



Illustrations: Lorne Carnes